

II. 事業の概要

1. 学園の事業報告

〔1〕情報公開について

私立学校法により閲覧に供することが義務づけられた書類（財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監事の監査報告書）は事務局に供え置き、在学学生及びその他の利害関係者から請求があった場合には、これを閲覧に供する態勢を整えている。

私立学校法の一部改正に基づく財務情報等の公開については、大学のホームページに掲載。また、大学後援会の協力を頂き、後援会が毎年発行している会報誌「リバティネット」に本学園の平成29年度事業報告書及び決算報告書（抜粋）を掲載した。

〔2〕監査について

学園の教育機能の向上と財政の基盤確立等に寄与するため、監査の実施を円滑かつ効率的に推進することを目的に、「監事監査規程」と「内部監査規程」を制定し、監査を実施した。

〔3〕平成30年度学園の実施状況等について

実施した事業内容は、次のとおりである。

（1）老朽化等による建物、建物附属設備等の改修・整備

- ①大学 5号館2階教室照明LEDへの取替工事
- ②大学 2号館エレベータ制御板内インバータ取替整備
- ③大学 1号館5階男子トイレ洋式便器取替工事
- ④高校 体育館床補修工事
- ⑤高校 武道館畳入替工事
- ⑥高校 3号館1階トイレ改修工事
- ⑦高校 第三寮の取り壊し

（2）施設設備備品等の整備

（法人）

- ①会計処理用パソコンの入替

（大学）

- ①体育設置のAEDの入替
- ②3号館教室（3教室）のプロジェクター・音響設備の入替
- ③1号館教室（1101）の空調入替
- ④コンピュータ教室のパソコン入替
- ⑤コンピュータ自習実習室のプリンター等入替
- ⑥ラーニング・コモンズ設置

（高校・中学）

- ①5号館3、4階及び3号館4階のエアコン入替
- ②校内ネットワークセキュリティ対策
- ③トラック入替

2. 各学校の事業報告

〔1〕宮崎産業経営大学

少子化がより一層進む環境の中で、学生確保は益々困難を伴ってきている。地方の小規模校は、大なり小なり同じ状況に置かれていると言っても過言ではない。このような中、本学では、引き続き、次の4項目に重点を置き、努力するものとする。

- ①本学の特色や強みが受験者層に受け入れられる努力（就職に強い大学・そのための様々な方策）
- ②入学後の満足度を高める努力（学生一人一人の充実感）
- ③地域の評価を得られる努力（地域に密接に結びついた社会貢献）
- ④受験者獲得のための戦略の工夫（メディアの活用）

これらの一連の問題点、方向性、ビジョンを大学教職員一人一人が同じ土俵に立ち、学生のニーズを尊重しながら、強い力で指導していく根気と気迫が求められる。そのため、高等学校訪問だけでなく、本学の内容を教員、事務職員の別なく、あらゆる場で、教育方針や活動状況を認知されるための努力を継続して実施していくものである。

また、宮崎県内で唯一の社会科学系大学として、法律・経済・経営・行動科学の領域に関する事項の調査分析及び地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め、もって地域の再生・活性化に貢献することを目的とする社会科学研究所を設置しており、今後も身近な問題を取り上げ、地域の再生・活性化に貢献していくものである。

（1）教育目的を踏まえた教育課程の編成

法学部の新カリキュラムは平成28年度より開始し、その有効性については今後、継続的に検証していく予定である。経営学部についても、カリキュラムの有効性については、今後とも検証していく予定である。

また、教授方法の工夫・開発については、FD活動の体制や内容を整備・充実していくため、両学部合同のFD検討委員会を通じて毎年継続的に改善を行っていく予定である。

（2）就職マニフェストの推進

本学では「就職に強い大学」となるため、「MSU就職マニフェスト」（魅力倍増宣言）を打ち出し、学生が社会に出てもすぐに通用する即戦力のある高い教養と自分の将来を設計できる自立心を持った人材育成のための「就職マニフェスト」の3本柱を学生に対する指導の重点項目とするものである。

①求人開拓の倍増

学生の選択肢を増やす目的で求人数を倍増させるため、各エリアごとに担当の教職員を配置し、年間を通じて企業訪問を実施した結果、この目標は平成16年度で達成した。よって、今後は、求人対策プロジェクトとして、学生のニーズに合致した求人を集積すべく努力していく。

②個別指導の倍増

Cナビ（進路研究演習）担当教員と専門ゼミ担当教員の二元体制で、さらに就職総合支援センターの職員と連携して一人一人の学生を確実にフォローアップしていく。

③学力アップの倍増

「Vコース」（基礎学力の向上と就職試験一次対策）を始め、「Cナビ」（社会観、職業観の醸成を図るゼミ）、「Wスクール」（公務員、教員受験対策等）で学力アップを倍増する。

その他にも、就職後、離職した卒業生に対してもキャリアサポートセンターを設け、

フリーターやニート防止にも全力を傾注している。卒業生をも対象に再就職支援、離転職の相談に対応する等、入学から卒業後に至るまでフォローしていく。

(3) 進路別コースの設定

平成18年度から各学部を導入した進路別コースには、コース指定科目を設定し、学生の進路に合わせた知識の修得をめざしている。

法学部

◎行政・社会システムコース

法律を通して、行政や社会の仕組みを学び、これからの社会の将来像を描くことのできる法的思考能力や政策的思考能力を身につける。

◎法律実践コース

司法試験（法科大学院進学）、司法書士、行政書士などの法律専門職や企業法務部門で活躍する人材をめざす。

◎スポーツ法学コース

法律の専門科目に加えて、スポーツに関連した法律学やマネジメントについても学び、スポーツの経験と法的知識を兼ね備えた人材をめざす。

経営学部

◎総合経営コース

総合的に経営学を学び、組織を運営するための能力や会計・情報などの実践的能力を修得し、経営に関する幅広い知識とマネジメント能力を身につける。

◎金融マネジメントコース

経済・金融のスペシャリストに必要な知識とスキルを身につける。ファイナンシャル・プランナーなどの資格取得にも取り組む。

◎スポーツマネジメントコース

スポーツをビジネスとして携わるための倫理や知識を修得することで、スポーツビジネスの発展に貢献する人材をめざす。

コースの学びや内容については、学生のニーズに応じていく予定である。

(4) 女性に優しい大学

本学在学者で女性の割合は、法学部が約18%、経営学部が約30%である。今後ますます少子化が進んでいくことを考えると、女子学生をいかに多く獲得するかがポイントになってくるものと考えられる。コマーシャル等で女性が頑張っていることを今後もアピールしていく。平成29年度には、女性に優しい環境を作るためにレディ・ルームやパウダールームを整備した。

(5) SUN18° 塾の活動

学生のキャリア形成を支援し、高度な採用試験・資格試験を突破できる人材を輩出するため、「SUN18° 塾」を設けた。その上で、本学は、県内唯一の社会科学系大学であり、広く九州管内をみても法学と経営学（含む経済学）を両立させている大学は稀有な存在であることからこの「社会科学」の大学である優位性を強力に推進していく。

○国家大計塾

国家Ⅱ種・地方上級現役合格、明日の国家・地方行政を担う人材育成

○リーガル・マイスター養成塾

ロースクール現役入学、司法書士・行政書士等法学資格試験現役合格等、法律実務家

- を養成
- 税務会計塾
税理士国家試験現役合格、高度なコンサルティング能力を備えた人材育成
 - ITリーダー塾
情報系難関資格を取得し、企業、学校等での情報化推進リーダーを養成
 - 青年実業家養成塾
事業継承、起業家としての総合社会科学を学び、「社長学」を体得した人材養成
 - 教員養成塾
神戸親和女子大学との連携による「幼稚園教諭一種、小学校教諭一種免許状」取得（通信教育課程）ならびに星槎大学との連携による「特別支援学校教諭一種・二種、保健体育教諭一種（中学・高校）免許状」取得（通信課程）のための教員養成
 - 宅建チャレンジ塾
基本的な法理論を学び、「宅地建物取引主任者」試験合格をめざす人材養成
 - 医療関連塾
医療の特殊性や独特な仕組みを学習し、医療の知識を備えた人材育成
 - 観光・旅行塾
地域活性化（観光客の誘致）などに取組む、観光業界で働く人材養成
 - 田園都市デザイン塾
オランダ国立ワグeningen大学との共同プロジェクト「アグロポリス21」に携わり、色々な経験を積むことで、コミュニケーション能力をもった人材を養成
 - ボランティア・スタディ塾
学生の主体的・自発的な学習をサポートし、関心のあるテーマごとに「自主ゼミ」を編成し、レベルアップ・スキルアップを図り、幅広い知識と専門知識をもった人材を育成
これらの内容をより一層充実させ、学生の満足度を高め、地域の本学に対する評価の向上に繋がるよう、この計画を継続、発展させていくものである。
これによって「就職に強い大学」のイメージを定着させていく。

(6) 「アグロポリス21プロジェクト」について

県内農業・食品加工業などの農食産業を元気にすることで若者が地元に残れる地域づくりを目指したいとの思いで、平成26年度にアグロポリス（田園都市構想）の事業を開始した。

開始以来、オランダへ6回の派遣とオランダ国立ワグeningen大学の研究者を交えた研究会の開催等の歩みを進めてきた。

平成31年度（2019年度）からは、アグロポリス第2ステージとして若者が主体となる『次世代型アグロポリス』を進めている。

その一環として、天正遣欧少年使節団にならい、「遣欧青年使節団」の選定を行った。これは、先進的な農業で成功しているオランダなどで見聞を広められるよう派遣するものである。

具体的には、1チーム5名（産経大生2名、県内高校生2名、JA青年部1名）で5チームの研究チームを組織する。その5チームが昨年6月8日開催のアグロポリス研究会で発表を行い、審査の上、最優秀チームを決定。最優秀チームは、昨年7月14日から7月21日の間、ヨーロッパに派遣された。また、派遣されたメンバーは昨年11月1日のアグロポリス会議で会議メンバーとして参加し、その翌日開催予定のシンポジウムではのヨーロッパ研究視察報

告を行った。また、本年1月26日には、テーマ「里山とアグリツーリズム」の基、県内の各市町村（綾町、西都市、えびの市、五ヶ瀬町、串間市）と協力して約半年間にわたり研究活動を進めるためのキックオフミーティングを行った。なお、この仕組みは毎年続けていく予定である。

(7) 法学部シンポジウム

これまで、平成30年7月15日開催のオープンキャンパスにおいて成人年齢引き下げの問題をテーマにシンポジウムを開催した。

宮崎日日新聞社報道部次長が司会を務め、高校生4名及び本学学生2名が選挙権、少年法適用年齢引き下げの問題など大人として位置づけられることへの不安や期待など、自由闊達に意見交換を行った。この模様は7月28日付けの宮崎日日新聞で大きく取り上げられ、多くの県民の皆様の反響を呼び、県内唯一の法学部を持つ大学としての使命を果たしたところである。

昨年7月14日に開催したオープンキャンパスにおいてもシンポジウムを開催した。このシンポジウムでは本県出身の明治時代の外交官「小村寿太郎」の業績を、日英同盟を通して顕彰するとともに小村の洞察力、危険なポピュリズムに流されない毅然とした姿勢等、今日に通じるリーダーとしての資質も評価し、発表した。また、当時の日露関係から現在の北方領土問題の考察も行った。その準備段階においては、小村ゆかりの日南市や都内及び東京近郊における関連施設を視察し、理解を深め、発表に盛り込んだ。

このシンポジウムには本学学生2名、日南高校を始め県内高校生4名がパネリストとして参加。宮崎日日新聞社が司会を担当し、同紙の特集記事として掲載された。また、来年度のシンポジウム（テーマ「西郷隆盛と宮崎県」）に向けて本年3月15日に本学学生2名、県内高等学校から生徒5名を中心にキックオフミーティングを行った。

(8) 宮崎県、日向市、高鍋町と調印

本学は、地域創生や地域活性化に関する取組の推進を目指し、平成28年3月2日に日向市と「地域資源の活用に取り組む連携協定書」を、平成28年3月16日に宮崎県と「地域創生に係る包括連携に関する協定書」を、平成28年3月24日に高鍋町と「地域創生に係る包括連携に関する協定書」の調印をおこなった。今後、各自治体と連携及び協力していく予定である。

(9) 宮崎日日新聞社との連携協定

本学は、地域の人材育成や地域社会の発展に寄与する調査・研究を行うことを目的に「包括的連携協力に関する協定書」を宮崎日日新聞社とは平成29年2月に、宮崎放送、テレビ宮崎とは29年9月に調印を行った。これにより、新設科目「マスメディア論」の講義では、前期に宮崎日日新聞社による講義、後期は各テレビ局による講義が行われた。

(10) 地元高等学校との連携

昨年に引き続き、宮崎南高等学校フロンティア科「総合学科」のための研修講義をゼミナール形式で8ゼミ開講した。また、福島高等学校「地域創生学」の授業への協力をおこなった。さらに、代理店経由を含めて延べ33校への出前授業を実施した。今後も地元高等学校と連携しながら様々な取組を行っていく予定である。

(11) 新たにグアム大学と語学留学協力を締結

2018年2月、アメリカで日本から一番距離が近い「グアム大学」と提携した。これまでも本学は、オーストラリアで最も歴史のある私立大学「ボンド大学」と提携し、4週間（夏季・春季）の海外語学留学を希望者に対して行っている。また、平成27年には農食分野で世界第一位のオランダ国立ワグeningen大学と協定を締結し、宮崎の農食経営を世界に放つアグロポリス構想の研究を通して、学生間の人的交流を図っている。今後も多くの学生が参加出来るよう語学研修プログラムを促進させていく予定である。

(12) 学生支援給付奨学金の実施

本年度は、寄付金による奨学金を、学業が優秀で、かつ、修学意欲が旺盛な学生30名に対し、一人当たり年額12万円の給付をおこなった。今度も寄付金を募り、奨学金の給付を実施していく予定である。

(13) 認証評価の実施

すべての大学、短期大学及び高等専門学校は、その教育水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、法令で定める7年以内に一度、文部科学省が承認する承認評価機構の実施する評価を受けることが義務付けられている。

本学は、平成28年11月14日から3日間、(財)日本高等教育評価機構による評価を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定する」との評価報告を受け取った。この認定関連事項については、ホームページ上に自己点検評価報告書を含め掲載を行っている。

(14) SD (Staff DeveLopment)の実施

SD活動を効果的・効率的に実施していくため、全学的なSD委員会を平成28年度に設置した。その委員会において本学の実情に応じた研修の実施方針・計画に取りかかっている。

(15) 情報公開について

学校教育法施行規則第172条の2第1項に基づく情報公開については、ホームページに平成23年3月から掲載しているが、今後も掲載内容・方法等検討していく予定である。

また、平成26年10月から大学ポータルサイトへ参加し、教育情報を大学ポータルサイトWEBサイトに掲載している。掲載内容等、今後、検討していく予定である。

〔2〕 鵬翔高等学校

夢を育む鵬翔高等学校の創造を目指して

鵬翔高等学校は、「実学・協調」の建学の精神のもと、九十年に亘って優れた知性とたくましい個性を具えた人材の育成に努めてきた。この伝統と歴史を育んできた本校は、これまでの実績をさらに飛躍、伸長させるとともに、これからも生徒一人ひとりが明るく活気のある学校生活を送れるように、全職員一丸となって「思いやりのあるきめ細やかな教育」を実践し、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成に努める。

(1) 教育方針

教育基本法、学校教育法及び私立学校法に基づき、学園の建学の精神を体し、次代の日本を担う創造性豊かにして、堅実且つ意欲的な生きる力に満ちた人間の育成に努める。

① 実力養成の教育（知育）

学力の向上に努め、将来にわたって学ぶ力を育成する。そのために各科の目標に対応できる教育指導体制の確立を図り、所期の目標の達成に努める。

② 良識ある人間の育成（徳育）

心の教育に重点を置き、健全な社会人となるための礼節を身につけさせ、生徒の自覚を促し、社会の発展に貢献するよう良識に基づいて行動する人間の育成に努める。

③ 不撓不屈の精神の涵養（体育）

心身を錬磨し、健全な身体の育成に努め、何ごとにも屈しない堅忍不拔の精神を養い、自己実現の基礎づくりに努める。

(2) 教育目標

① 品位ある人間の育成に努める。

生徒として基本的な生活習慣を確立させ、礼節を重んじ、言語、服装、行動において、節度のある人間を育てる。また、校則、社会規範を遵守できる適格な判断力を持つ生徒を育成し、けじめのある生活習慣を養う。

② 個性の伸長をはかる。

学校生活においては、学習活動、部活動、資格対策、生徒会活動等の多くの活動があるが、これら諸活動への参加を促進させ、充実感や達成感を体験させることにより、個性の伸長をはかる。

③ 生徒指導の充実をはかる。

基本的な生活態度を確立し、帰属意識、規範意識を高める。合わせて多様化した社会への安全教育の充実をはかる。

全職員あげて校内外の生徒指導の充実をはかる。

④ 特別活動の充実をはかる。

活力ある学校生活を送らせるために、学校行事やホームルーム活動等を通じて、集団を構成する一員としての自覚を促し、他と協調できる豊かな人間形成に努める。

⑤ 保護者との連携をはかる。

生徒が健全な学校生活を過ごすには保護者、学校の相互の信頼と協力があってこそ成り立つ。遅刻、欠席、早退等の相互の連絡、生徒の悩みや将来について、保護者との連携をはかる。

⑥ 国際理解教育の推進をはかる。

国際交流の場を設定し、外国・日本双方の文化に対する関心、理解を深めさせる。他の国を理解することにより、日本の良さを再認識できるようにする。

(3) 教育目標の達成を目指して

本校は、進学系・実業系の両方を兼ね備えた総合高校であり、これらの目標を明確にするとともに、平成23年度に学科のコースについて改編を実施した。

① 進学体制の強化

ア「特進英数科」

進学体制を強化するため、また、昨今の大学入試の多様化への的確な対応や特に難関国公立大学・医歯薬系統への進学指導の徹底を図る。

イ「英数科」

「文武両道の中で、国公立大学を目指す（総合進学）」と「トップアスリートに成長し、多岐にわたる進路実現を目指す（スポーツ）」という2つの視点を進める。

② 就職指導の強化充実

ア「くらしの科学科」

「商業情報」「医療歯科」の両コースとも、人間社会、つまり「くらし」の主たる部分を構成するものであり、高校生にとって身近な素材を取り上げて学習するカリキュラムとした。高次資格・歯科助手等の取得を確実に達成し、就職・進学に強い学科の特徴を明確にした。

イ「システム工学科」

「電子機械」「自動車工学」の両コースとも、数万点にも及ぶパーツを組み立てて製品を作るというシステム工学の分野において、「実験・実習重視のものづくり」を共通目標に据えたカリキュラムとした。パソコン技術検定や自動車整備士等の各種資格取得を着実に達成した。

ウ「看護科・看護専攻科」

今後も職業人育成としての教育の質を低下することなく、看護師育成と全員の国家資格取得を目指すとともに地域医療に貢献する人材育成を目指す。

(4) 生徒募集の充実について

広範な生徒募集を継続的、積極的に実施するため、地区担当者との綿密な企画のもと事業にあたる。中学校及び塾等との情報収集を強化する。

(5) 学校評価の実施について

学校は教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならないとされている。本校においても実施に向け準備に取りかかっている。

〔3〕 鵬翔中学校

鵬翔中学校は、6年中高一貫教育を実践するため、平成15年度に開校した。

6ヶ年中高一貫教育は、高校入試の影響を受けずに安定的な学校生活を送れること、将来の大学進学を念頭に置いた計画的・継続的な教育指導が展開できること、異年齢集団による活動を通じて社会性や豊かな人間性を育成できる等、多くの利点がある。これらの利点を最大限に活用するとともに、高等学校における進学指導実績を活かし、生徒一人ひとりが明るく活気のある学校生活を送れるように、全職員一丸となって「思いやりのあるきめ細やかな教育」を実践し、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成に努める。

(1) 教育方針

教育基本法、学校教育法及び私立学校法に基づき、学園の建学の精神を体し、次代の日本を担う創造性豊かにして、堅実且つ意欲的な生きる力に満ちた人間の育成に努める。

① 実力養成の教育（知育）

学力の向上に努め、将来にわたって学ぶ力を育成する。そのために各科の目標に対応できる教育指導体制の確立を図り、所期の目標を達成する。

② 良識ある人間の育成（徳育）

心の教育に重点を置き、健全な社会人となるための礼節を身につけさせ、生徒の自覚を促し、社会の発展に貢献するよう良識に基づいて行動する人間の育成に努める。

③ 不撓不屈の精神の涵養（体育）

心身を錬磨し、健全な身体の育成に努め、何ごとにも屈しない堅忍不拔の精神を養

い、自己実現の基礎づくりに努める。

(2) 教育目標

「礼・学・道・健」の4つの概念のもと、学年別目標を設定し、その実現をはかる。

【 礼 】

- 1年…礼節の形を形成する。(大きな声でしっかりとした挨拶の出来る生徒の育成)
- 2年…礼節の心を醸成し、豊かな人間関係を構築する。(周囲に対する敬意、思いやりの心を育む。)
- 3年…1・2年生で学んだことを基礎に、社会性を身に付け、加えて集団のなかで自己をアピールできる積極性を育てる。

【 学 】

- 1年…学習することの意義を正しく認識し、宅習の習慣を定着させる。
- 2年…現在の「学ぶ」姿勢を自ら点検、修正できる問題解決能力を育む。
- 3年…明確な進路展望を伴った学習姿勢の確立。

【 道 】

- 1年…自己の適性を思い込みでなく客観的に認識する。
- 2年…自己の将来像を実現可能な「夢」として認識し、その実現のために努力を惜しまない生徒の育成。
- 3年…高等部への進学を控え、進路展望の具体化と再認識。

【 健 】

- 1年…食事・睡眠・運動・疾病予防を基本とした健全な基本的生活習慣の確立。
- 2年…日常生活の中における危機管理能力の育成。
- 3年…身体健康をもとに「精神的な逞しさ」の育成。

(3) 学校評価の実施について

本校においても高等学校と足並みをそろえ、実施に向けて準備に取りかかっている。